

狀況不明者の資料局

本籍地

一等兵

所属部隊固有名第五航空隊司令部

通稱番号第九八五部隊

昭和三年六月三日午前四時奉天收容所に於て戦病死せり遺留品

(遺髪及貯金通帳印鑑)は [redacted] 伍長歸還の際推挙行一福岡縣博多

不立病院第一課に依頼す

満洲第八九部隊

伍長

4-12

陸軍

死七事實證明書

本籍地

所屬部隊

(通稱号)

陸軍之屬

右ノ者昭和三十一年六月二十七日午後二時滿洲國奉天市ニ於テ戰病死
シタルコトヲ證明ス

昭和三十一年四月十四日

元陸軍之屬

4-13

2257

所屬	固有名	隊	中隊	徵集徑區	現	航
部	通稱號			徵集徑區	現	航
				役種	航	
				兵種	航	
				年		
				月		
				日		
				生		

不
籍地
留守現任所
本島地商

担當者續柄氏名

死
入地應召年月日
以善中隊

殁
內地港灣年月日
階級進級

者
外地港灣年月日
其
他

略
主要作戰名及
期
其
他

歷
時
職
務

死
七
認
定

死
七
年
月
日
時
分
職

16-12

2259

本籍地
遷往所

右一同

所屬部隊名

平壤陸軍

一等兵

陸軍(死之前)

軍屬

死亡場所

滿洲國

延吉集安所

赤刺六宿棟

區分

病死

日時

昭和十一年七月廿七日午前七時半頃

傷(病名)

赤刺

留守担当者住所

續柄氏名

父

口證明書

昭和十一年二月廿二日

住所

延吉集安所

滿洲國延吉集安所赤刺六宿棟一等兵

四
第
一
冊

姓名	張	氏	名	長	字	長	號	長
生年	甲	子	年	八	月	八	日	時
死年	甲	子	年	八	月	八	日	時
死因	病	死	由	劫	斬	年	月	日
葬所	本	地	所	葬	長	名	者	地
葬法	土	葬	葬	葬	葬	葬	葬	葬
葬地	本	地	所	葬	長	名	者	地
葬時	甲	子	年	八	月	八	日	時
葬費	甲	子	年	八	月	八	日	時
葬費	甲	子	年	八	月	八	日	時

187

死 亡 證 明 書

陸・海・邦

裏面記載上の注意を見てください。(※)※及び裏面の各欄は記載に及びません

資 料 提 供 者 死 亡 知 照 法 方 法	死 亡 者 遺 骨 及 び 遺 骸 の 処 理 遺 留 品 の 処 理	死 亡 者 元 死 亡 事 由 (傷 病 名)	死 亡 者 諸 死 亡 場 所	死 亡 者 死 亡 日 時	死 亡 者 死 亡 区 分	死 亡 者 発 病 場 所	死 亡 者 発 病 時 期	死 亡 者 区 分	死 亡 者 本 籍 地	死 亡 者 前 戦 時 の 住 所 (在 留 地)	死 亡 者 域 名 通 称	死 亡 者 部 隊 又 は 廠 有	死 亡 者 所 属 (所 轄) 固	死 亡 者 細 部 所 属	死 亡 者 地 区 局 面	死 亡 者 容 容	死 亡 者 守 留 担 当 者 名 氏	死 亡 者 所 住 現	死 亡 者 名 氏	死 亡 者 統 柄 (元)	死 亡 者 死 亡 時 刻 階 級 (衆 職 名 職 位 又)	死 亡 者 名 氏	死 亡 者 年 月 日 生	死 亡 者 女

執照は沙河は(連行途中)知人の刑甲より用く

死 亡 者 と の 関 係

所 属 部 隊 職 務

現 住 所

[Redacted]

附 属 職 名

[Redacted]

死亡当時の状況及び参考資料

市内道路作業中、二人の歩人が刑甲(一名)と係争隊員(或は)六名に連行され、通及

刑甲とは以前からの知り合であったが、尋ねると

彼(刑甲)は去る年(昭和二十一年)八月十四日

の運送長の息子と結婚し、その日(八月十四日)に

沙河口には森鉄殺せられ、同遺体は

理由は旅順の通信隊から逃げた者として、隊で

古里市内で逃亡し、接したところ、ピストルにより

殺害された。小公子警署に報告し、速捕され、罪

状明白となつた。

字と奥確認したところ、本人は同遺体と似ている。

昭和 年 月 日

徵獲 兵糧

所屬 留守 相

現認證明書

本籍地

所屬隊

官等級 陸軍上等兵

現認之事項

病名

七十九

發病年月日

昭和二十一年八月廿九日

死年月日時 昭和二十一年八月廿六日 十九時三十分

胃處理狀況 瑞希向島有延吉縣德新區英東屯西山約三町地点埋葬人
其他 氏小生等ト共ニ其東下敷五六丁ニ于昭和二十一年四月廿日以末八路吊命ニリ農作業ニ従事シ日夜苦勞ヲ
其ニ也七十一十長家三

在現認人

現認人

陸軍一等兵

概

備考	三七三	所屬部隊	[Redacted]
717	倉員	死亡當時官階	死
[Redacted]	[Redacted]	氏名	亡者姓名
死傷	死傷	區分事	死傷
[Redacted]	[Redacted]	山場町	[Redacted]
昭	21. 8. 28 0.400 時	年月日時	昭和二十一年八月二十八日 0.400 時
甲	甲	確度	甲
葬	死休火	確度決	[Redacted]
[Redacted]	[Redacted]	理由	[Redacted]
携	遺骨	遺留品	[Redacted]

死傷
氏名

昭和二十一年八月二十八日
0.400 時

甲

8-11

真

一 本籍地 京都府八幡市南條

一 氏名 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 不明

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

一 留年根 〇〇〇〇

戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所屬部隊名(通稱號) 宙第五二九部隊

一、徵集年 昭十八 役種 特別標隊見習兵種 航空

一、官等(死歿前) 少尉 (死歿後)

一、氏名 [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日生

一、死歿場所 瀧川奉天省奉天市鉄道区日邊銅材集中心

一、死亡區分 理由 昭和十八年一月南支那行機事故ニ依リ(父)ニ依リ野療死

一、死歿年月日時 昭和二十一年九月十四日午前四時

一、死歿者本籍地留守擔當者 [Redacted] (父)

右確認(證明)ス

昭和二十一年十月十三日

元所屬部隊名

瀧川第一五二九部隊

現住所

元官等級 陸軍一等兵

氏名印

註 死亡事由、場所ハナルベシクソシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナッタ者ハソノ前後ヲ

クソシクオ知ラセ下サイ

宛先

地方世話部慰恤係

3-12

死亡推定とする模範

所

九野航修

編部所属
(行動時)

之作業隊

死亡推定
場所

北安省
北安付近

職級
氏名

(一)

一、生死不明となつた當時の状況

1. 本名の所属していた九野航修修理廠は、終戦にともない、海江省安遠に
おいて武装解除をうけた後、主力は綏北編成の作業入隊に編入せられ、
經由入ソした。

2. 本名は、主力とともに入ソし、ウヤツカ地区に收容されたが、病弱のため昭和三十一年
四月ころ黒河へ送り返され、南崗收容所に收容され、同年六月の黒河事件後、
第三務団要員として北安へ南下した。同年九月中旬、哈爾濱方面に向う南下
の際、北安に残留し、以後全く消息を絶つていった。

(同部隊)

証言)

3. 当時北安付近は奥地よりの避難群により混乱を極め食糧の不足、寒波の流行等により多数の死者を生じている状態であった。

三 判 決

以上のとおりであるので、本名は、昭和二十一年九月二十一日、中華民国北安省北安県北安付近において栄養失調症により戦病死したものと推定される。

70-15